

## 「身近な地域の岩石の観察」（2022年6月～7月）

### (1) 実践1の目的

教科書に沿った「岩石のでき方」や「岩石の分類」の学習であるが、その岩石をできるだけ地元で採取できる岩石を使って実践した。それによって、観察する岩石に対して親近感がわき、身近な大地の成り立ちを考える目的のために有意義であると考えた。

火成岩、堆積岩、変成岩の順に観察を行ったが、全て、兵庫県豊岡市玄武洞の玄武岩や淡路の流紋岩、六甲山の花こう岩、閃緑岩などできるだけ身近な地域の岩石を入手して実験観察を行った。それらのうち、身近な火成岩の観察について紹介する。

### (2) 実践1の内容

身近な地域で採れた火成岩を班（4人）に、身近な岩石6種類（兵庫県玄武洞の玄武岩、安山岩、淡路島の流紋岩、高知県の斑れい岩、神戸六甲山の花こう岩、神戸六甲山の閃緑岩）を配布して観察させた（図27）。

授業の始めに、岩石の名前を伏せて配布し、どの岩石がどの岩石名に当てはまるかゲーム感覚で行った。岩石名と実物とが一致してから、ルーペを使用して観察させた。



図 27 身近な火成岩の観察 生徒の様子